
赤 潮 情 報 (赤潮警報続報No. 2)

鹿児島県水産技術開発センター
平成 17 年 8 月 5 日

八代海赤潮警報続報No. 2

[1] 8月4日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

東町漁協との共同調査を行った結果、シャトネラ アンティーカがほとんどの調査点で確認されました。また、東町沿岸部、出水沖、熊本県海域の水俣沖、芦北沖、御所浦島周辺で、コックロディニウム ポリクイコイデスが最高379cells/ml確認され、熊本県海域では、コックロディニウム ポリクイコイデスによる着色域も確認されました。

(2) 海 況

表層水温は調査海域で26.2～29.2℃で平年同時期並、塩分は31.2～32.7で平年同時期よりやや高め、透明度は平年同時期並みとなっています。

水 温：平均 27.2℃ (27.2℃)

塩 分：平均 32.1 (31.5)

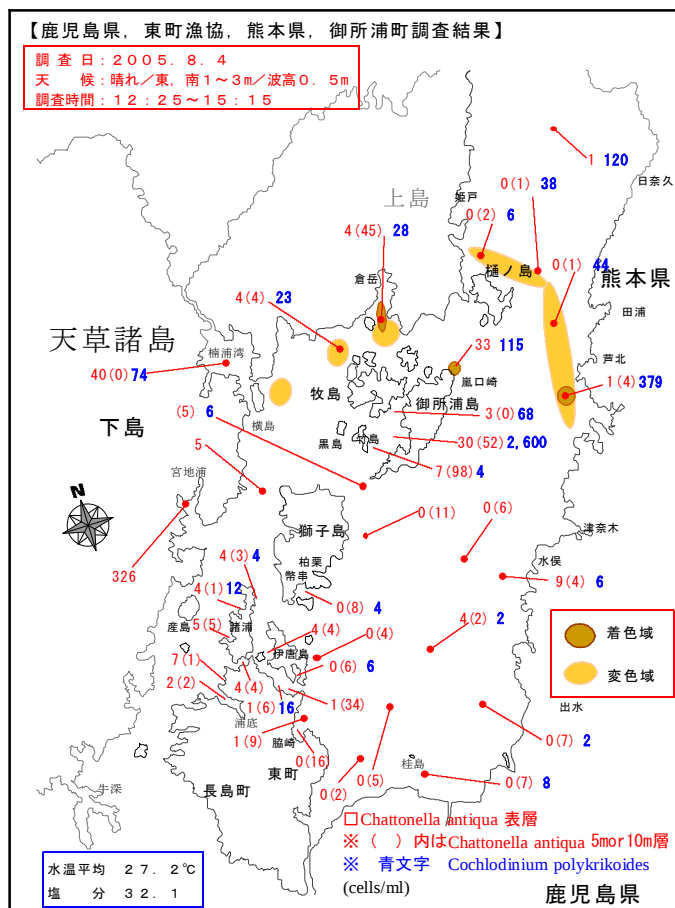
透明度：平均 8.1m (8.0m)

() はH元～H16年8月の平均値 (同平年値)

[2] 今後の赤潮発生の予想

今回の調査結果及び、熊本県と熊本県御所浦町調査の結果により、シャトネラ アンティーカについては依然として八代海全域に広がっております。細胞数については、多少の増減が見られるものの、最低致死濃度の30～50cells/mlを超えている海域もあります。特に、台風の影響による強風や潮流による集積で急激に細胞数が増加することが考えられますので、今後も引き続き厳重な警戒が必要です。

コックロディニウム ポリクイコイデスについては、鹿児島県海域の多くの調査点で確認され (最高16cells/ml)、熊本県海域では着色域も確認されています。本種は高温 (27～28℃)・高塩分 (32～33) を好むとされています。現在、八代海については本種の最適水温・塩分にあることから、今後、本種が増加することが考えられますので、シャトネラ アンティーカと同様に警戒が必要です。特に、八代海北部域の着色水塊の南下に警戒が必要と思われます。



赤潮情報(携帯用)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑(パソコン用)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>